

鳥谷部 春汀（とやべ・しゅんてい）

1、プロフィール

評論家。明治30年代雑誌「太陽」を主宰、人物評論に周到公平な筆をふるい、いわゆる人物月旦の典型をつくりあげる。

<生没>

1865(慶応元)年3月3日 ~ 1908(明治41)年12月21日

<代表作>

評論『明治人物評論』『続明治人物評論』『時代人物月旦』『春汀全集』(全3巻)

<青森との関わり>

三戸郡五戸村(現五戸町)生まれ。明治12年青森専門学校に学び、教師としても勤める。

2、作家解説

本名は銚太郎。明治9年、巡幸に随従の有栖川宮が五戸小学校に臨幸の時、生徒代表として歴史を講ずる。12年青森専門学校農芸科に入る。その後、上京苦学、帰郷し母校教師などを経て、21年東京専門学校に入り、24年卒業。帰郷中に島田三郎に認められ、「毎日新聞」記者となる。27年近衛篤磨の機関誌「精神」(後に「明治評論」と改題)を託される。同誌での人物月旦が彼のジャーナリストとしての道を開く。30年博文館に招かれ「太陽」に人物月旦の筆をとり、33年報知新聞社の主筆となったが、35年復帰し「太陽」の主宰となり、死去まで継続。

彼の人物評論は、周到な調査の上に立って、平明な文章によって不偏不党の評価を下すところに特長があった。生前すでに敬意をこめた評価を受けたが、死後はまた、冷静に人物の性格、立場、功績を観察し、いやしくも人身攻撃に陥ることとはなかったなどの評価を得ている。

3、資料紹介

○『明治人物評論』

図書

1898(明治 31)年 11 月 13 日

150mm×110mm

雑誌「明治評論」「太陽」に掲載した人物月旦を、発表順に編纂したもの。政治家、軍人、思想家、文人、実業家等各界の人物を評論。そのゆきとどいた調査を基盤とした、公平な論評は、平明達意の文章とあいまって、評価が高い。